

# 山手川水系河川整備基本方針

平成 12 年 7 月

長 崎 県

# 山手川水系河川整備基本方針

## 目 次

1 . 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 -----	1
( 1 ) 山手川流域の概要 -----	1
( 2 ) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 -----	3
1 ) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 -----	3
2 ) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並び に河川環境の整備と保全に関する事項 -----	3
3 ) 河川の維持管理に関する事項 -----	4
4 ) 地域の個性の創出と地域連携に関する事項 -----	4
2 . 河川の整備の基本となるべき事項 -----	5
( 1 ) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 --	5
( 2 ) 主要な地点における計画高水流量に関する事項 -----	5
( 3 ) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に 関する事項 -----	6
( 4 ) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に 関する事項 -----	6

< 参考図 >

山手川水系流域概要図

## 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

### (1) 山手川流域の概要

山手川は、その源を標高 360m の犬山瀬岳に発し、ほぼ東方向に山間部を貫流、途中で大堤溜池が存在する左支川を合流させた後南流し、右支川、並びに左支川狩立川を合流させた後黒瀬漁港に流れ込む 2 級河川である。その流域は、富江町に位置し、流域面積 5.8km<sup>2</sup>、幹川流路延長は 3.2km で、当該町における社会、経済の基盤をなしている。当流域の自然・社会状況等は以下に示すとおりである。

#### 気候

山手川流域は、対馬暖流の影響を受けて冬は暖かく、夏は涼しいといった海洋性の気候を示し、年平均気温は 16～17 と温暖である。年平均降水量は概ね 2,300mm 程度と多雨であるが、台風や集中豪雨の影響を強く受け、多雨年と少雨年、あるいは、夏季や冬季の降水量較差が大きくなっている。特に台風期の豪雨によって災害が多く発生している。

#### 地形・地質

流域の地質は主として新第三紀中新世に形成された五島層群であるが、この五島層群は砂岩・泥岩・凝灰質岩等で構成されるものであり、岩質は固結した堆積物であって、断層や火成岩の貫入の影響を受け、一般的な層序の確立や真の層厚を知ることは極めて困難とされている層である。また、河川沿いの低地等狭い範囲にはわずかに沖積層の分布が見られる。

#### 自然環境

山手川流域は、シイ・カシ等の広葉樹林、スギ・ヒノキ等の針葉樹林が山林の多くを占め自然環境が豊かなところであり、ウサギ、イタチ等の小動物のほかにウグイス、ホオジロ等の野鳥が生息している。河岸には植生は余り見られないが、一部にススキやヨシ類が見られるほかアコウの木などが分布しているところもある。

また、主な魚類としては、カワムツやヨシノボリ等が広い範囲で生息している。

#### 河川水質

山手川の水質に関しては、今のところ公共用水域における類型指定を受けていないが、県が実施した水質調査試験(H10.12)の結果では、BOD値 0.7～1.4mg/l を測定している。この値はA 類型(2.0mg/l)を満足して

いること、水道部局が行っている水質検査結果も基準値を十分に満足していること等から山手川の水質は良好であるといえる。

#### 流域人口

山手川流域は富江町に属し、流域人口は約700人でそのほとんどが下流部の黒瀬郷に集中している。

#### 土地利用状況

山手川流域は、その大半が山地でありシイ・カシ等の広葉樹林、スギ・ヒノキ等の針葉樹林に被覆されているが、わずかに広がる河川沿いの低平地が古くから水田、畑等の耕作地として利用されている。

#### 産業

山手川流域がある富江町の基幹産業は、葉たばこを中心とする農業であり、全町の耕地面積のうち約64%が畑に利用されており、他には水田・樹園地が各々約18%となっている。

富江町の農業の就業人口は昭和30年をピークとして漸減の一途をたどり、労働力そのものも高齢化しているが、町では農村環境の整備、前述の主幹作物を中心とした営農集団化の推進、また、畑灌施設の水を利用した畑作営農を確立するためのそ菜栽培を振興し、経営の複合化を進めているところである。

#### 治水の概要

山手川は河積が小さいために過去何度となく、洪水氾濫による浸水の被害を受けている。記録に残っているものでは、昭和42年7月洪水を始めとして、近年では昭和62年、平成元年、平成3年と度重なる洪水被害を受けており、特に下流沿川の宅地密集区域の住民は、豪雨時には不安な生活を余儀なくされている。そこで、平成6年より河川改修に着手し、河道拡幅、河床掘削等を実施している。なお、高潮による被害はこれまで発生していない。

#### 利水の概要

山手川の河川水は、堰及びポンプ場から取水され、水田灌漑及び水道の各用水として利用されている。なお、流域内には小規模な溜池は存在するが、その他ダム等の水資源開発施設はない。

## 河川利用状況

山手川の河川空間の利用としては、住居地が集中している下流では散策路や安らぎのある空間として、また、中上流で魚釣り、水遊びといった憩いの場として親しまれている。

### (2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

長崎県では河川整備の基本理念として「たくましい川づくり」、「美しい川づくり」、「楽しい川づくり」、「地域と共生する川づくり」を掲げ、安全で快適な生活環境の創造を目指している。

山手川の整備においても、これらの基本理念に基づき、関連地域の社会、経済の発展に係わる諸計画（長崎県長期構想、富江町総合計画等）との調整を図りながら、水源から河口まで一貫した計画のもとに河川の総合的な保全と利用を行っていくものとする。

#### 1) 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

山手川は、流域内資産の状況、県内バランス、戦後最大洪水等を考慮して、30年に1度程度の確率で発生する規模の洪水を安全に流下させることのできる整備を目指すものとする。

さらに、整備途上における施設能力以上の洪水や計画規模を超過する洪水等に対しては、警戒避難体制及び情報連絡体制の整備等のソフト対策を総合的に実施する。

#### 2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の整備と保全に関する事項

近年、地域住民の生活等に著しく影響を与えたような渇水実績はないが、今後とも地域住民や富江町等関連する他行政機関との緊密な連携のもとに、現在の良好な河川環境に配慮しつつ、合理的な水利用の促進等適正な水利用が図られるよう努める。

また、本水系に広く生息するカワムツ・ヨシノボリ等の魚類や河畔に生育するアコウの木等の亜熱帯性植物等の多様な動植物の生息・生育環境に配慮した多自然型川づくりを推進する。

さらに、地域住民の貴重なアメニティの場として、河川空間の適正な利用の促進と良好な水辺空間の整備を図るものとする。

### 3) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する多面的な機能を十分に発揮させるため適切に行う。

### 4) 地域の個性の創出と地域連携に関する事項

住民が川とふれあえる場を整備し、地域の河川に係る取り組み等を促進・支援する。また、地域へ種々の河川情報を発信するとともに、地域からの河川整備に対する要望の集約を行い、地域住民との情報交換に努めていく。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水は、30年に1度程度の確率で発生する規模の洪水とし、そのピーク流量は、戦後最大となる昭和42年7月洪水や平成元年9月洪水等を踏まえ、水神宮前基準地点において125m<sup>3</sup>/sと設定し、これを河道に配分する。

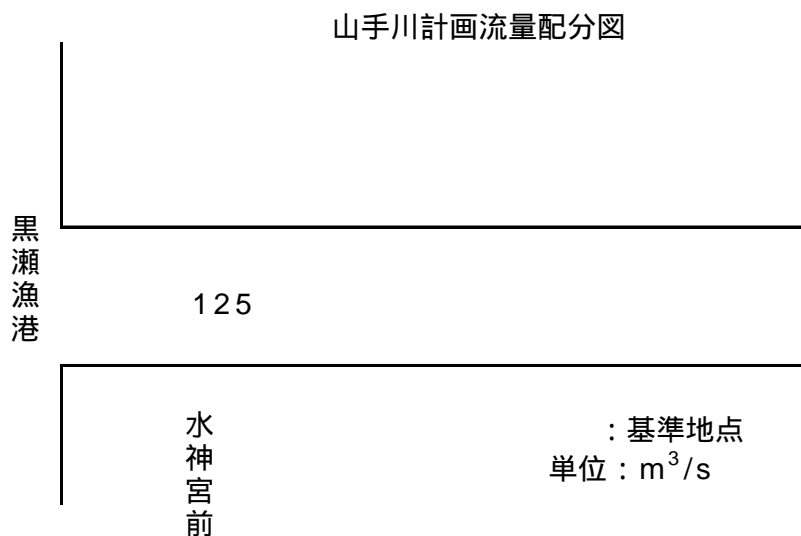
基本高水のピーク流量等一覧表

(単位：m<sup>3</sup>/s)

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設等による調節流量	河道への配分流量
山手川	水神宮前	125	-	125

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

山手川における計画高水流量は、水神宮前基準地点において125m<sup>3</sup>/sとする。



- (3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項  
 本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (TP.m)	川幅 (m)	摘要
山手川	水神宮前	0.34	+1.62	28	基準地点

(注) TP：東京湾中等潮位

なお、河川工事の実施にあたっては、川幅は必要に応じて拡幅するとともに、横断形は、動植物などの現状を踏まえた適切な形状とする。

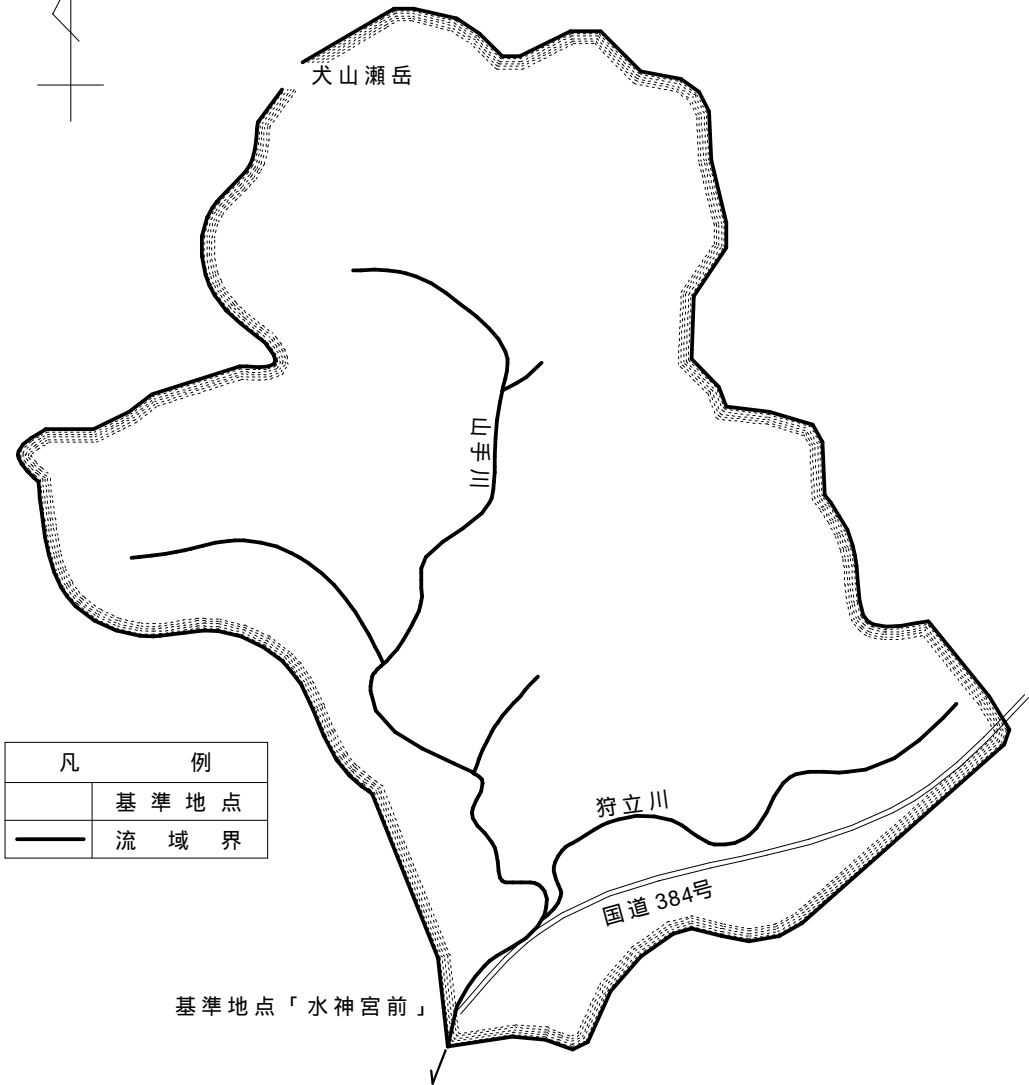
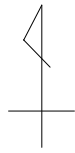
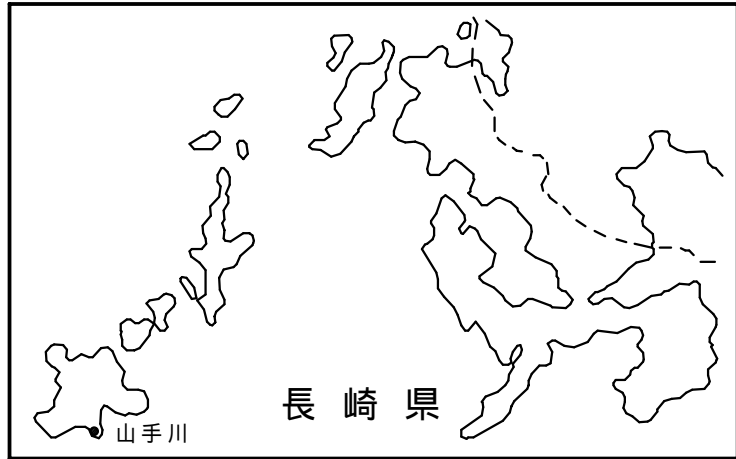
- (4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

山手川における既得水利としては、農業用水として 8.0ha に対する慣行水利がある。

近年、これらの水利用に著しい影響を与えるような渇水実績はない。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関しては、今後流況等の河川の状況の把握を行い、調査検討を行うとともに、適正な水利用がなされるように努めるものとする。





山手川水系流域概要図